

リレー連載生ヒストリー温故知新
第15回 池田有美子さん（69期）

1. 関東同窓会参画のきっかけは、一本の電話でした。「寺島です」との言葉に「え？ どちらの寺島さんですか？」 それまで同窓会には無関心で、年2回送られてくる会報にさっと目を通すくらい、もちろん会費も払っていませんでしたから、寺島さんを存じ上げる由もありませんでした。この方が、昨年お亡くなりになられた寺島知恵子さん（58期）でした。その後も何回か電話やFAXで熱心な同窓会へのお誘いを受け、とうとう根負けして、副会計長という役を引き受けました。というわけで、寺島さんにスカウトされたのでした。

役職と期間

2008年6月～	1期3年間	副会計長
2011年6月～	1期3年間	副幹事長
2014年6月～	2期6年間	副会長

2. 印象に残っている事は、なんといっても年1回担当委員長として開催した「女性同窓生の会」です。女性会員の交流を図るという目的の下、講演会2回、コンサート2回、語りの会1回をそれぞれ会食付きの懇親会に併せて行いました。参加者は52期～103期の30～40人と年代を超えて集い、緩やかな輪が広がり、和やかで親しいひと時を過ごしました。

2020年4月に予定して準備を進めていた6回目の会が、新型コロナ感染禍の中で延期を強いられ、任期中に実施できなかったことが残念でした。その年の総会も初めて書面による決議総会となりました。

3. 苦勞したことは、「女性同窓生の会」の参加者を確保することでした。メールを中心に個々に参加を募りましたが、1回のメールでは反応が薄く、締め切り後、再度お誘いのメールを出すことが当たり前でした。何人もの方が快い返事をくださりありがたかったです。また、欠席とのメールをくださる方もいて、今回はダメでもいつかはと思えて顔を合わせることもなくても交流が出来て幸いでした。

4. 同窓会活動に参加したことで多くの先輩・同期・後輩の方々と出会い、緩やかな交流が出来て、人生がちょっぴり豊かに彩られたように思います。多くの人が、多分、人生の後半になって同窓会に目が向くようになるのではないかと思います。その時のために同窓会としては情報を発信し続けていることが大切だと思います。HPしかり、会報しかり、声掛けしかり。万年収入不足の同窓会ですから、欲張らずに身の丈に併せた活動、推移する時代に合わせた活動で良いのではないかと思います。